

令和5年度第2回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第2回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和5年11月20日（月） 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、及川恵理子委員、大内早智子委員、小野寺忍委員、小岩邦弘委員、加藤沙央里委員、西條恵美子委員、佐々木承子委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千田久美子委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員
※オンライン参加 泉賢司委員
※欠席者 小山亜希子委員、齊藤裕美委員、佐藤泰彦委員、三浦幹夫委員、千田好記委員
 - (2) 事務局 菅原稔市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事

5 議 題

- (1) 後期基本計画「主な指標」令和4年度実績の報告について
- (2) 次期総合計画策定基本方針（案）について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 小岩邦弘会長挨拶

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

今回は、初めてのオンラインとのハイブリッド開催ということで、慣れない点があると思うがご了承願いたい。

また、会議の時間について、これまでは2時間の設定であったが、今回は1時間半となっており、今後もそのようにしたいとのことである。

議題は2つあるが、1つ目については事務局からの説明を受けて、質問や意見は会議後にオンラインで受け付けることとなっている。

2つ目の議題についてはこの場で議論をしたいと思っているのでよろしく願いたい。

9 審議内容

(1) 後期基本計画「主な指標」令和4年度実績の報告について

事務局から資料No.1、2に基づき説明を行った。

質問や意見は会議後にオンライン等で受け付け、後日回答することとした。

(2) 次期総合計画策定基本方針（案）について

事務局から資料No.3～6に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 計画を見ていつも思うのは、計画の推進母体、主体はどこなのかということである。議会も行政もあるという中で、市民の役割がほとんど見えない。計画を作った後に、市民1人1人はどのように市を盛り上げ、住みやすいまちにしていくのかという点も含め、エンジンとなる推進母体の部分が見えない。例えば、ごみの削減という目標に対して、個人では部屋のゴミを少しずつ減らすというようなそれぞれの役割があり、計画にもそのような視点があれば「より住みやすいまちにするために自分ならどうするか」「今日は何をすればよいか」という考え方が生まれるのではないか。

新たな10年の計画を立てるということであれば、市民の役割を明確にして示したほうが、取り組みやすく、計画と市民の暮らしが一緒になると思う。

理念ばかり主張しても、その理念が市民に伝わらないと何の効果もないと思うので、市民が当事者意識を持って、自分が何をすれば目標を達成できるのかを明確にすることで、生活と密着した良い計画になるのではないか。

会長 資料No.3の2の前段にあるように、元々、総合計画は行政だけではなく、計画を見た市民とも方向性を共有するという目的があるが、今の総合計画を知っている市民が一体何人いるのかという課題もある。PRの方法も考えていかなければならない。

委員 総合計画の中にまち・ひと・しごと創生総合戦略と人口ビジョンを含めるということだが、県でも総合戦略を策定している中で、総合計画の中に含める形でも総合戦略として代替できるものなのか。

また、総合戦略には有識者会議というものがあるようだが、総合計画と一体化することによりどのように変わっていくのか。

事務局 国、県においても総合計画と総合戦略をそれぞれ策定しているが、国で定めている「地方版総合戦略の策定の手引き」で「総合計画等を見直す際に、地方版総合戦略としての内容も備えているような場合には、これらの計画と総合戦略を一つのものとして策定することが可能」という記載があるので、そのように進めたいと考えている。

事務局 総合計画と総合戦略を一体化した際に、総合計画審議会とまち・ひと・し

ごと創生総合戦略有識者会議をどのようにするかという点は、現在検討を進めているところである。

有識者会議は、専門的なアドバイスをいただくような場となっており、総合計画審議会は専門的な意見だけではなく、市民の皆様からの意見もいただいているところであるので、会議体の役割を今後どのようにしていくのかという点についても検討を進めてまいりたい。

会 長 まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口ビジョンを次期総合計画と一本化するという考え方でよいか。

一 同 異議なしの声あり。

委 員 人口ビジョンの将来展望シミュレーションの設定について、この前提に対して一関市ができる施策としてどのようなことを考えているのか、教えていただきたい。

事務局 自然動態については、合計特殊出生率が令和12年にかけて国民の希望出生率1.80まで、令和22年にかけて市民の希望出生率1.96まで上昇し、さらに令和32年にかけて人口置換水準である2.07まで上昇し、以降は維持するものとして設定している。

事務局 自然動態の設定において希望出生率1.96まで上昇させ、社会動態の設定において転出減や転入増に向かうよう、市としてどのように取り組んでいくかという点について、自然動態の面で市としてできることは限られていると思うが、産み育てやすい環境づくりは市が取り組むことができると思っている。

社会減については、一旦転出してもまた戻ってこられるような仕組み作り、例えば、奨学金の返還補助や家賃補助、雇用の確保、拡大に向けた施策が重要だと考えた上で、このような推計にしたところである。見直しを行う際には、皆様から意見をいただきながら設定などの考え方を改めていきたいと思っている。

委 員 人口減少や様々な分野での人手不足が深刻になっており、人口ビジョンの独自推計においては、総合計画の期間10年間で1万人減るという推計となっているが、それを約2千人緩和したいというのが将来展望シミュレーションである。

人口減少は深刻な問題であり、網羅的に何かをやっても間に合わないのではないかと考えている。

一関市では、特にどの分野で人手不足となっているのかという予測があれ

ば教えてほしい。人手不足が深刻化している分野で、人口減少対策を重点的に取り組むのが良いのではないか。

事務局 人口ビジョンでは、市全体で生産年齢人口が下がっていくような推計となっており、実態もそのようになっている。

一方で老年人口については、資料No.6の裏面のグラフにあるとおりに増えてきており、ここ何年かでピークとなり、その後は下がっていくという推計となっている。生産年齢人口と比べると、老年人口の減少具合はそこまで大きくないため、現在様々な分野で人手不足の影響は出てきている中、高齢者の介護や医療の分野での人手不足は既に顕在化している状況である。

また、行政においても、公務員離れという流れもあり、毎年度募集をしてもその募集人員に達しない状況にあり、職員が減っている状況である。

このような中で、今までのサービスを維持、向上させていくためには、今の仕事の質を変えていかなければならないと考えている。その一つの方法として、DXを推進しながら、機械でできるものは機械に任せつつ、相談を受けるなどの業務は職員がやるというように、仕事のやり方を変えていきながら、様々な施策を講じて人手不足に対応していきたい。

委員 行政職員が減ってきているということで、これからは市民の協力ができないことが多く出てくると思うので、そのような意識を持つことが大切と考える。

委員 老年人口はここ何年かがピークということで、高齢者の活用についても検討をしていくべきである。

元気で働きたい高齢者が、やりたい仕事はあるが行きたい職場がないという状況と、各職場において人手はいるが人材がないという状況にミスマッチが生じている。市役所で60代、70代の方が働いていてもいいと思う。

市民を取り込んで、みんなでまちづくりをしようという体制にしていけば、人口減少や、少子高齢化などをあまり心配することなく、一関市は良いまちだと思われるかもしれない。

会長 計画の構成について、今までどおり基本構想、基本計画、実施計画の3階層にするということによいか。

また、期間について、基本構想は10年間、基本計画は前期後期の5年ずつ、実施計画は3年ごと、毎年ローリングで見直しということによいか。

一同 異議なしの声あり。

会長 スケジュールについて、基本構想は令和7年2月通常会議で、前期基本計

画については令和7年12月通常会議の議決に向けて進めることとしてよいか。

また、市民意向の把握方法について、アンケートやワークショップ、パブリックコメントを行っていくということによいか。

一同 異議なしの声あり。

会長 計画策定体制の最後にあるように、基本構想や基本計画の策定に当たっては、総合計画審議会へ諮問することとなっているのでよろしくお願ひしたい。

委員 アンケートを実施するとのことだが、その結果はどこかで公表するのか。

アンケートに回答した市民が、自分が回答した内容と同じことを考えている人がどのくらいいるのかを知ることができるということが、アンケートへの関心度に繋がるのではないか。

事務局 アンケートを実施するまでの流れとしては、まずは次回の総合計画審議会
でアンケートの内容をお示しして、皆さんから意見をいただき、その後、来年度にアンケートを実施したいと考えている。アンケート結果については、集約後、委員の皆様にお示しし、ホームページで公表する予定としている。併せて、基本構想や基本計画を作る段階で市民に説明をする機会があるので、そのような機会でもアンケート結果に触れながら説明していきたいと考えている。

委員 前期基本計画が令和7年12月通常会議で議決となると、その後に実施計画を策定するまでの期間が短すぎるのではないか。

前期基本計画と一緒に実施計画も策定するという形なのか。

事務局 前期基本計画を策定する段階で、5年分の事業の計画を作り、その中の3年分が実施計画というイメージであり、基本計画と実施計画は並行して策定していく予定としている。

委員 アンケートは、幅広い意見を市民の方々から聞くということが目的と思われるが、今、労働力不足の対策から、海外から実習生を受け入れようという流れもある中で、アンケートの対象に外国人という枠がないのは何か理由があるのか。

また、交流推進課で独自で実施しているアンケートもあると思うが、それは総合計画のアンケートとは別のものになるのか、組み込む形とするのか。

事務局 外国の方も市民であるので、市民アンケートの対象に含まれる。しかし、市として、外国人が暮らす環境、働く環境を日本人の市民と同じようにすることを施策として挙げているので、必要であればこの審議会において外国人の方から意見をいただく機会を設けたいと考えている。別途アンケートが必

要かという点については、検討させていただきたい。

また、市では多くの計画を策定しており、その計画ごとにアンケートを実施しているので、それを集約できないか調整をしているところである。総合計画のアンケートで全て網羅できるかという、難しい部分もあるので検討を進めてまいりたい。

委員 アンケート対象者を無作為抽出するに当たり、意見がある人が選ばればよいが、意見がない人がほとんどだと思う。そういった時に、目安箱のようなものを活用し、外国の方など、意見がある人が意見を市に出すことができる方法をもっとプッシュしていけばいいと思う。

委員 ワークショップのテーマは決まっているのか。

事務局 委員皆さんの意見を聞きながらテーマを設定したいと考えている。

委員 若い人に「総合計画を見たことがあるか」と尋ねたところ「そのようなものがあるのか」という回答であり、また、「アンケートが来たら協力するか」と聞いたところ「面倒くさい」とはっきり言われてしまった。

積極的に自分の声を市に届けようという教育をしないで育ってきていることを実感したところである。二次元コードからオンラインで手軽に回答できるというツールができて、いざそこに自分の声を投稿するかというとそうではなく、SNSのようなもっと手軽で自分が日頃使っているツールであれば投稿するかもしれないが、なかなか難しいことであると感じた。

その人に「こういうのがあったらいいという、日頃思っていることをどのようにしたら話しやすくなるか」と聞いてみたところ、「子育てサークルなどに子どもと一緒に行って、活動しているような人たちがお茶を飲みながら話すような場であれば、日頃感じていることを話してくれるのでは」と話していた。具体的な意見を持っている方々から、意見を収集するような仕組みがあったらよいのではと思ったところである。

委員 アンケートの回答では不満点が多いと思うので、それをすべて叶えるのではなく、必要なものをうまく抽出していかなければならないと思う。

また、ワークショップは向こう10年のことを話すので、フリーテーマではなく、テーマを設定しないと取り留めなくなってしまうような気がする。

委員 現在の計画を策定した際には、概要版を全戸配布し、そこには市民の参画についても記載されていた。皆さんが見ていたかどうかは分からないが、こちらからお知らせはしていたということは伝えておきたい。

委員 今はほとんどの地区で地域協働体が組織されているが、藤沢地域では、自

治会や体育協会などの各団体の方々も入り、今後の10年をどうするかという意見を出してもらっている。その中では、行政に何かやってほしいことがある時には要望という形ではなく、自分たちでやることも載せて計画を作っている。

このように、自治会からの声を地域がまとめ、最終的にはそれを1つにまとめるというような仕組みがあるとよい。アンケートなど様々な方法があるが、地域協働体は市が推進して組織してきたものなので、そこの意見も聞きながら、計画を策定していただきたい。

自分たちの地域を良くしようという動きが広まれば、市全体が良くなると思うので、一気にではなく、1つ1つ積み上げていくことで活力を生み出すことが大切なのではないか。

委員 人口が減少している一方で、リモートワークが多くなってきており、働く場所は都会でなくてもよくなってきている。そのため、自然豊かな一関市に来たという方や芸術活動をしたくて来た方、農業をやりたくて来た方などがおり、そういった方のほうが一関市の魅力や今困っていることなどの意見をいただけるのではないかと思う。

ワークショップのテーマを設定することは重要であると思うので、テーマを決めて、そのような層の方々の意見を聞くのが良いのではないかと感じている。

委員 総合計画があることを知らない人がいるという話があったが、これからの一関市を担っていく中高生を対象に、学校の授業の一環として総合計画の概要をお話するようなPRは必要なのではないかと思った。

10 担当課 市長公室政策企画課